

事業のタネシート

活動地域・団体名：NPO法人84プロジェクト

事業名称1：自伐型林業（小さな林業）とゆず農業との兼業化

あらすじ

馬路村は、人口約800人の小さな村であるが、昭和30年代後半から始まったゆず栽培を基に、JA馬路村がその商品化を積極的に推進したことにより、現在は年間売上30億円を超える基幹産業となっている。しかしながら、過疎化や高齢化によりゆず畑の管理が十分に行われず、生産量の減少が危惧される状況となっている。このため、自伐型林業就業者がゆず畑の管理を兼業することで、生産量の維持を目指す。

ストーリー

馬路村で自伐型林業に従事する者が、ゆず畑の草刈りや剪定、さらに施肥などの管理を行うことで、現状47haのゆず畑を維持するとともに、約700トンの収量を確保する。なお、将来的には休耕地を活用して自分のゆず園を造成する。また、自伐型林業とゆず農業との兼業により、世帯合計で500万円の収入が確保できることから、移住者の受け入れ促進につながる。なお、このビジネスモデルは、馬路村に比べて森林面積とゆず栽培面積が多い隣の安芸市においてもその展開が可能となる。

		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	自伐型林業とゆず農業との兼業化を進めることにより、世帯合計で500万円以上の所得を確保し、親子4人の家族が豊かに暮らせる地域社会。	①自伐型林業推進要員としての地域おこし協力隊の採用 ②施業林の確保・斡旋のための馬路村や森林組合の積極的な関与 ③ゆず畑管理にあたってのマッチングと斡旋
②課題	自伐型林業の定着とゆず畑管理委託のための意向調査が必要。ゆず畑の管理委託にあたってのマッチングと斡旋が必要。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	馬路村の基幹産業であるゆず産業の基盤強化と地域の担い手となる移住者の積極的な受け入れ促進。	
④地域資源	馬路村の96%を占める豊かな森林資源とゆず資源	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	①自伐型林業を推進することによる森林の生長量を超えない素材生産と馬路村の急峻な森林を守る作業道 ②ゆず栽培面積の維持・拡大と収量の確保	
⑥担い手（Who）	県外からの移住者を中心とした自伐型林業就業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	①50ha程度の施業林を確保することにより、森林の生長量を超えない持続的な素材生産（収入）が可能となり、200年の森が形成される。②馬路村の基幹産業であるゆず産業の基盤が再整備され、栽培面積と収量の継続的確保	JA馬路村、馬路村、馬路村森林組合、ゆず生産農家
⑧事業で生じる成果	移住者が増加することにより、地域の過疎化を緩やかにするとともに、福祉活動や消防要員など地域の担い手の確保につながる。また、自伐型林業の実践・普及に伴い、里山の手入れや土砂災害防止に繋がる。	